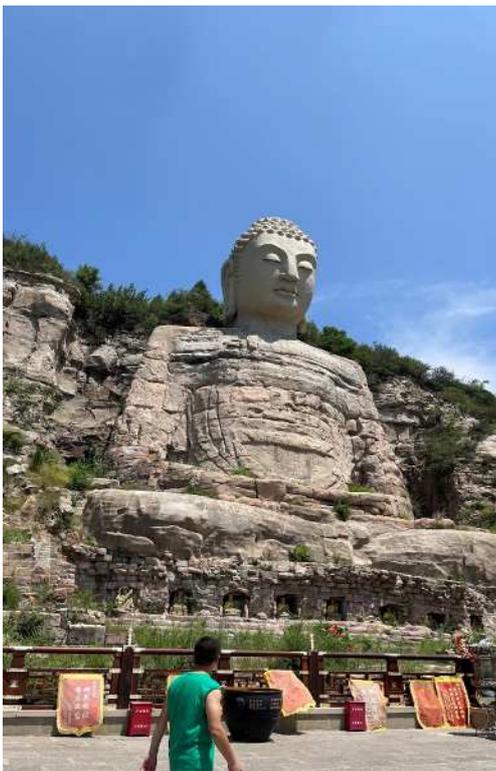


惜別の水無月

皆様お久しぶりです、大瀧です。今回が毎月のミニレポートでは最後となりました。6月は、授業や期末試験を含め、様々なものに「最後」が付く別れの多い1ヶ月間だったと思います。とはいっても、期末試験や就職活動の全てを終えたあとの留学生活は、この10ヶ月の中で最も充実したものでした。

まず、期末試験直後に中級クラスの友人達と蒙山 Méngshān を訪れました。別名「西山」とも呼ばれているこの山は、自然の美しさと歴史的・宗教的価値を兼ね備えた名所で、特に有名なのが「蒙山大仏 (Méngshān Dàfó)」です。北朝・北齊時代(6世紀、約1500年前)に造られたとされています。岩山に直接彫られた摩崖仏(まがいぶつ)は非常に大きく、頭部まで含めると高さ約63メートルにもなり圧巻です。皆さんも太原市にいらした際には、ぜひ訪れてみてください。



この写真にある「国泰民安」の4文字は、「国の政治が安定し、国民が安心して暮らせる」ことを願って書かれたものです。どこかで聞いたことがあるなと思い記憶を遡ったところ、留学が開始して間も無い頃、日本語専攻の大学院生が太原市を紹介してくれた際に聞いたものでした。以前学んだことが点と点で繋がるような感覚とともに、この10ヶ月間があっという間に過ぎ去っていたことを

実感させられました。

どこか観光スポットに行く以外にも、日々の生活の中にある些細な一つ一つも、今となっては非常に大切な思い出です。寮の近くでクラスメートとバトミントンをしたり、他の留学生や中国人学生達とバレーボールをしたり（僕は元々球技が全く出来ませんが）、またある時には夜集まってUNOをしたり、とても素敵な思い出を作ることができました。



そんな日々を過ごした後の留学最終日、武蔵国際空港までクラスメートが見送りに来てくれました。大きなスーツケースを2つも持った帰国となりましたが、彼らのおかげでスムーズに空港まで向かうことができ、本当に感謝してもしきれません。笑顔と名残惜しさの中別れを告げるその光景は、10ヶ月前日本を出国する際に見たものと非常に似ていました。最初から最後まで、周りの方々に常に支えられてここまで来ることができました。留学生活の中で感じたことの詳細などは、最終レポートでお話したいと思います。今月も最後までご覧いただきありがとうございました。